

令和6年度 上越市立有田小学校 第1回学校運営協議会議事録

期日：令和6年7月2日（火）15:00-16:30 会場：有田小学校多目的室

<次第> 進行：教頭

1 開会のあいさつ（委員 A） 略

2 校長あいさつ（校長）

先日の不審者対応では、すぐに取り組んでいただき、地域をあげて子どもを大事にしていることがよくわかりましたし、私たちも非常に支えられているのもよくわかりました。皆様のご協力なくしては子どもを守れないと思っています。今回素早い対応をしていただいたこと、本当に感謝申し上げます。合わせて、今後ともよろしくお願いいたします。

今、非常に子供たちの笑顔が増えてきていると思っています。ただ、トラブルが減っているわけではありません。子どもたちは、集団でいる限りは、喧嘩になったり、あるいは口悪いこと言ってしまうたり、あるいは手が出る場合もあるのですが、ひどくならず、子どもたち自身も相手のことを思いやれるようになってきたし、なおかつ言葉も変わってきています。これまで、ありがとうや、挨拶、あるいは優しい言葉を使おうという声掛けを繰り返し行ってきましたが、その結果が見えてきたかなと思っています。これも地域の方々からご協力いただいていた、総合的な学習や生活科などで、色々教えていただいたことが、非常に子どもたちの心を育てることにつながっています。また、豊かな体験をさせていただいているのも、子どもがよりよく育つ環境となっているのではないかと考えています。図書館ボランティアやあるいはPTAボランティアでも大人の方々がたくさん入っていただいて、献身的に子供と関わっていただいたり、より良い体験をさせていただいたりしていることで、教育環境的にも人的にも非常に支えていただいていたのではないかと感じています。

運動会がありましたが、子どもたちの活躍をたくさん見ることができました。子どもたちが進んで取り組む姿もできています。また、6月に上越市教育委員会の管理主事が学校の様子を見に来たのですが、「よく育ってきていますね」という話を伺いました。授業風景もそうだし、休み時間に教室から出てきた高学年の子どもたちが「こんにちは」とか会釈したりする姿も立派だと。もちろん課題もありますが、さらに良好な人間関係を作れるような力を育てたいと考えています。人と上手に関われるかどうか、この先中学校行っても、あるいは社会人になっても非常に大事な力だと思っていますので、今後も続けたいと思っています。学校だけではなく地域の様子も色々教えていただきながら学校をもっとより良くしていきたいと思っていますので、本日の協議、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

3 報告・協議

① 令和5年度学校運営協議会振り返りについて

教頭（昨年度の評価より）

全体の93%が「学校が楽しい」と捉えている。（児童）

全体の94%が「学校が楽しい」と捉えている。（保護者）

有田小は、とても地域との関わりが深い学校であり、児童の挨拶が増え、表情が良くなってきた。皆さんからご意見をいただくことで、学校と地域が一体となる会にしていきたい。

② 本年度の教育活動について

校長 「自分もみんなも大切にする人」(豊かな人間性・社会性の育成)を最優先に作成した。以前は、傷つけ合うことが多かったが、だいぶ改善されてきた。自己受容、他者信頼、他者貢献を大切にしてきた。中身は変わっていない。月別仲良し目標は継続して行う。学習面では、主体的に対話的を加えた。地域や保護者と協力しながら、学校運営を継続していきたいと考える。特に子どもたちの「言葉」を変えたい。言葉から「友達との関わり」を変えていきたい。良い言葉を伝え合いたい、伝える機会を増やしていきたい。そのために今年度も月別仲良し目標を設定した。

「人と人との心を結んでいく」ことが「深めていきたい」ことであり、形式的なあいさつや言葉の使い方を教えていることではない。人生を変えていけるような、言葉の使い方を自らが覚えることで、幸せになれる。それを繰り返すことで子どもたちの環境や生き方が変わっていく。以上の考えから、学校内で教育活動を重ねていく。学校外でも子どもたちに変容が見られたら、ぜひ教えていただきたい。

③ 学校評価について

教頭 (アンケート結果は)数値よりも「自分もみんなも大切にする」気持ちをもつことが大切であり、次の一手を打つためにぜひ活用をさせていただきたい。評価の中に「自分もみんなも大切にする」ことを項目に入れた。他の学校では、学習・生活の順にアンケートを行うが、有田小は、生活(心)を重点的にアンケートを行っている。友達との関わりや、友達の考えを聞くなど、子供たちの心を大切にすることを最優先したものである。とても素敵な考えなので、ぜひ実践を継続していきたい。

④ 夢・志チャレンジスクール事業について

教頭 キャリア教育を中心に教育活動をしているが、特に9年間を見通した小中一貫の取り組みが重要であるとする。野菜収穫、動物飼育、地域の探検活動、稲作作業等を通して、地域との関わりを深めながら、子どもの資質・能力を育てていきたい。有田の子どもたちは、地域に足を運び、様々な活動を行っている。具体的な活動については、昨年度同様、稲作作業や動物飼育等を行う予定である。予算は上越市教育委員会からいただいている。綿密な計画を立て、子どもたちの成長に役立てていきたい。

4 意見交換

委員B 6年生の英語の授業を参観したが、明るく楽しく表現する姿が印象的であった。

委員H 活動については、他校と比較してしまうが、大規模校の大変さも感じられる。

- 委員 I 後援会として学校に協力できることは、町内会を中心とした冬囲いの活動である。不審者対策についても防犯協会や協議会に連絡していただけると、素早く対応できるし、立哨指導や見回りが可能である。
- 委員 E 昨年度の7月から町内会長をしている。子どもたちの登校・下校を見ていると、以前よりも表情が明るくなっている、と感じる。
- 委員 C 子どもたちが自主的にあいさつする姿から、成長や変化を感じる。今後はメディアコントロールや学力をつけることが大切であると考え。また、大規模校の様子や地域の様子を見せたい。
- 委員 F 子どもたちの挨拶が良くなり、落ち着いて授業に取り組むことができている。
- 委員 G 知・徳・体も大切だが、まずは学校へ登校することが大切であると考え。グラウンドデザインも徐々に実現可能な形になってきたと感じる。孫の連絡帳を見たら、「仲間の良い所」のコメントを見つけた。その取組は全校体制で行われているのか？をぜひお聞きしたい。良いことをしてもらっているなと感じている。「個に応じた学習」については、大変ではあるが、ぜひお願いしたい。グラウンドデザインとリンクしているのか？メリハリのある取組にしていくために、ぜひお聞きしたい。「自分もみんなも大切に」の実践は、スクールマネジメント計画に生かされてないのではないか。ぜひ新しい取組をしていただきたい。(アンケートも結果を受けて)大規模校だと5%は割合が大きい。活かし方をぜひ再考していただきたい。
- 教 頭 「自分もみんなも大切に」する活動は、各学年に一任している。日記に書く、発表しあう、など様々である。このような様子を聞かせていただけることはとてもありがたいことなので、職員に知らせたい。
- 学習については、他者意識をもつことで取り組ませたい。「何をどのようにがんばるのか」「なにが身についたのか」を自らが考え、実践を重ねていきたい。職員同士で研修を重ね、工夫をしていきたい。
- 令和6年度のスクールマネジメント計画については、今回の会のご意見をお聞きした上で、「自分もみんなも大切に」を視点に置いて、作成していきたい。
- 校 長 ご意見をお聞きして、「振り返る」ことの大切さを感じた。物事をネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに考え、1日を終わられるようにしていきたい。連絡帳については、職員研修で発表し合う機会があるので、確認していきたい。
- 委員 D 一地域に住む人間としては、生活習慣や交通ルールを守ることが大切であると考え。先日スマホをいじりながら自転車を運転している中学生をみかけて、とても恐怖を感じた。学校の場を離れても交通ルール等を身に付けることが大切であるし、社会人としての成長の一環として、学校という集団の中で育てることが必要である。
- 委員 A 昨年度からPTA組織の改編に取り組んでいる。理由はPTAの負担が大きいからである。できる人ができる機会にやっけていく、学校に足を運ぶことで先生との関わりも深くなる。専門部についても変えていく方向である。
- 委員 K 中学校では様々なトラブルがある。小学校のうちから心の指導を大切にすること

が重要である。クラブ活動も活発になるのでなおのことである。

教 頭 お話しされた、メディアコントロールについて説明もう少しお聞きしたい。

委員 C やはり生活が安定すれば、学力も上がるし、子どもたちも学校で安定した生活を送ることができる考える。

教 頭 今の子どもたちの遊びは、ゲームをしながら会話して遊ぶことが殆どである。ゲームの時間も夜中の12:00であり、特に中学生が多い傾向にある。それで寝不足や体調を崩す児童がいるようである。

委員 F 子どもたちは、iPad を毎日持ち帰っているのか、またそれを利用してゲームなどで遊んでいるのか？

毎日持ち帰っているが、ゲーム等をする履歴が残るので、していない。

有田小の子は使いこなせる子が多いので、使用について指導する必要がある。

委員 B 授業で子どもたちが使用する姿を見たが、すごく早かった。

委員 I あくまでツールであるので、我々の知識が先端をいっていないと厳しい。どうしても問題行動に視点がいきがちなので、メディアの使用が悪い方向になってしまう。子どもがメディアを楽しめる機会を持つ方が前向きである。

委員 K うちの子は、パソコン操作が教育のおかげですごくできるようになった。どうしても生活習慣が乱れるとそちらに視点がってしまう。

委員 A 家では、ネットワーク環境を遮断した。そこまでしないと子どもは止められない。なかなか難しい問題である。

すごい課題解決能力である。大人は視点を变えて、褒めてあげるべきである。どうしても大人は、制限をしたがる。メディアの負のイメージを大人がもっている。大人の制限を潜り抜けるのは、今も昔も同じである。課題の与え方を大人が考え、方向性を示してあげることが大切である。

スマホに新聞を取り入れていると「大人はいつもスマホを見ている」と言われる。便利なが逆子に子どもに批判を受ける。

教 頭 ゲームは、大人にはマイナスイメージになるのでは？どうなのか？

委員 I 知恵（知識）試行錯誤の面では、学習に値するかもしれないが、大人はそうみていない。今の大人は学校で得た能力や知識を活用しているのだが、それを確認していることはない。

委員 F 授業参観で欠席が多いクラスがあったが大丈夫なのか？

教 頭 カゼが原因であり、感染症等は流行していない。

校 長 算数、国語は取り出し授業を行っているので、その影響も考えられる。個に応じた指導は効果があるが、教職員に人数の限りがあるので、現状が適切である。

副会長あいさつ 略

*本議事録は発言の趣旨をまとめたものであり、発言そのものを記録したものではありません